

# 要ヶ丘



発行

海士町立海士中学校

住所 海士町大字海士九四四番地

TEL 08514(2)0744

E-mail ama.jhs@town.ama.shimane.jp

## 二期を始めるにあたって

### 「本気で『挑戦』」

校長 真野 幹

一学期は「凡事徹底」を図り、挨拶やマナーの向上に取り組んでまいりました。その土台の上に立ち、一人一人の能力を伸ばす意味で、今学期は「挑戦」ということに重点を置いて取り組みたいと思っています。

今学期初めに行った学園祭では生徒も教職員も「本気」で取り組み、すばらしい演劇を発表できました。

今学期は学園祭以外にも様々な行事があります。新人戦、音楽会、駅伝など、力を合わせて「本気」でがんばらないとできない行事ばかりです。また、学力の向上も大きな課題です。

そこで、生徒一人一人にめあてを持たせ、最期までねばり強く取り組ませたいと思います。『できない理由を探すのではなく、できるようにするためにはどうしたら良いか』を考えさせたいと思います。

困難なことに挑戦し、それを乗り越える経験をするには、自信や達成感につながります。そして新たな挑戦意欲につながっていきます。

生徒一人一人が自分の限界に挑戦するような学期にするため、教職員一丸となって取り組んでまいります。お願いします。

## 学園祭『演劇』

演劇リーダー（三年女子）

A組は「わっしょい〜アマデミー賞をとったるぜ〜」という合言葉で頑張ってきました。練習の時は、自分にかせられた役をもっと良くしようと工夫しました。



先生にももらったアドバイスをもとにどんどん良くなっています。先生にもらったアドバイスをもとに、とても良いものが出来上がったと思います。本番では今までで一番良い劇ができたと思います。最後まで仲間を信じ、努力したからこそ私達がとりたかったアマデミー賞がとれたと思います。このメンバーでとれたことは私にとってもかけがえのないものとなりました。仲間には「ありがとう」という気持ちと「頑張ったね」という言葉かけたいです。頼りないリーダーだったかもしれないけど、最後までみんなと演劇を作ることができて、最後の学園祭は三年生にとって一番良い思い出となりました。先生や、仲間

達、本当にありがとうございました。

B組 演劇リーダー（三年女子）

今回の学園祭では人手も足りない中、両チームともに一生懸命準備をして本番に臨みました。最初は「恥ずかしい」「この役やりたくない」などの声がちらほらあったりして、まともまりがなくバラバラしていることもありましたが、最終的には全員がアマデミー賞や個人の演技賞を取ろうと一所懸命自分の役になり切って演じることができました。

私達のチームは惜しくもアマデミー賞を逃してしまいましたが、「やり切った」「楽しかった」という声がたくさん聞けました。



私自身も本当に楽しかったし、三年生にとっては中学校生活最後の学園祭を心から楽しめたと思います。受験に向かう前に本当に良い思い出を作ることができて良かったです。最後に、私の沢山のわがままな注文をきいてくれて、いつも私を支えてくれたB組のみんなに心からお礼を言いたいです。みんな本当にありがとうございます。

## 学園祭『体育祭』

青組 体育祭リーダー（三年男子）

今回の体育祭はとても楽しんでやることができました。僕たちの青組は「わっしょい」を組のテーマにし、どの競技も本気で戦いました。青組はみんな仲が良く、団結力もとてもありました。十九人二十脚はあまり息が合わなくていいタイムが出せなくて負けただけでみな笑っていられたような愉快なチームでした。最後はリレーで優勝が決まる展開になって負けてしまったけど、最後まで笑顔で楽しむことができましたので良かったです。僕はこのメンバーと一緒に体育祭をできたことを嬉しく思います。体育祭はやっぱり最高でした。皆さんありがとうございました。ございました。

赤組 体育祭リーダー（二年男子）



僕たち赤組は、「斬新奇抜」をテーマにみんなで一緒に頑張ってきました。赤組は、演劇でアマデミー賞を取ることができなかったけど、体育祭は気持ちを切り替えて臨むことができました。途中までの競技では青組に負けたけど、チームの団結力が試される一九人二十脚と全校リレーで勝つことができました。最後に逆転して勝つことができました。演劇で負けてしまった分、最後の最後に勝つことができました。うれしかったです。僕は今年の体育祭でみんなの力を合わせる大切さを学びました。今学期にはまだ、駅伝や音楽会などの行事も残っています。体育祭で学んだことを活かし、これらの行事もみんなで協力し団結してやり遂げることができたらと思います。最後に一緒に力を合わせて戦った赤組のみんなに感謝したいです。本当にありがとうございました。

## 学園祭結果

- ・演劇 A組
- ・アマデミー賞 A組
- ・体育祭優勝 赤組





### 隠岐中学校弁論大会

九月九日(金)に、西ノ島町ノアホールにおいて隠岐中学校弁論大会が開催されました。本校からは男女各一名ずつが出場し、内一名が優秀賞を受賞しました。学園祭の準備と並行しての少ない時間の中で、精一杯練習してきた成果を発揮したよい発表でした。弁論で伝えたメッセージをこれからも実践し、さらに成長していつてほしいと思います。以下生徒の感想を紹介します。【教員】

○私は弁論をやるのは先生が言う高い声は出ないし最後まで嫌でした。でも、思っていたより本番の日は早く訪れました。本番のリハーサルでは、自分に注目が集まると思うだけで声が震えました。ステージの裏で一人になった時、私はとにかく落ち着くことを意識しました。すると、本番は声が震えることはありませんでした。あんなに嫌だった弁論大会でしたが、今はやっつて良かったと思えます。賞には入らなかったけど堂々と発表することができて良かったです。【二年女子】

○弁論は学園祭と並行して練習しなければならぬので覚えられるかな安でした。「なんで自分がやらなければならぬのか」と思いながらやっています。しかし、練習を進めていくと「やっつてやる」という気持ちに心が変わっていききました。たくさん人の前の発表はこれまでにない緊張感があったけど、本番はこれまでで一番良い発

表をすることができてとても嬉しかったです。この経験を忘れず日々の生活に生かして過ごしていきたいです。【二年男子】

### 三年生隠岐ジオパーク学習

九月十三日(火)。隠岐世界ジオパークについての知識を深めるため、三年生が隠岐の島町に出かけました。隠岐の島町内のジオサイトを巡り、ジオパークとしての特色を知るところをテーマに、島後の様々な場所へ行き、シーカヤック体験を行いました。以下に生徒の感想を紹介します。

○神社にあった大きい木は二千年も前からあった木と知ってすごいと思いました。大蛇や馬が通ることや真ん中を歩いてはいけないということなど初めて知ったことがたくさんあったのでよかったです。シーカヤックは慣れたら楽しくて、滝も洞窟もすごかったし、ゾウの岩がリアルでびっくりしました。【女子】



○神社の見分け方は屋根の木の切り口で男か女かということが分かりました。シーカヤックは海水かけられたりぶつかったりして大変だったけど楽しかったです。隠岐の特色は自然のものが全てそろっていることだと思います。【女子】



### 京都造形芸術大学の学生皆さんによる海士町PRポスターについて

海士中学校修学旅行三日目の京都造形芸術大学での発表に際して、その発表から得た情報と中学生のイメージをもとに大学の学生の皆さんがふるさと海士についてのポスターを考えたので紹介させていただきます。このポスターは、キンニヤモニヤセンターや役場、図書館、高校など町内数か所に掲示しています。ポスターを作成いただいた京都造形芸術大学の酒井教授ならびに大学生の皆さんに心より感謝申し上げます。



### 各大会成績

- 県総体陸上【益田】
  - 七月二十三日(土)
    - 【種目】三年女子100m
    - 【結果】予選第三組 八位 一五秒二二
- 県総体ソフトテニス【江津】
  - 七月二十二日(金)
    - 男子個人ペア
      - ・一回戦 四対一(羽須美中)

- ・二回戦 二対四(松江二中)
- 七月二十三日(土)
  - 男子団体
    - ・一回戦 二対一(仁多中)
      - 一番手 四対三
      - 二番手 一対四
      - 三番手 四対三
    - ・二回戦 一対二(大田一中)
      - 一番手 0対四
      - 二番手 二対四
      - 三番手 四対0

- 島前地区科学作品展審査会
  - 九月十四日(水)
    - ・特選 二年男子
      - 「水溶液の濃さと浮きやすさの関係調べ」
    - ・入選 一年女子
      - 「潮の満ち引きと時間の関係」

- 第三十回全隠岐ソフトテニス大会
  - 九月二十五日(日)
    - 男子個人
      - 準優勝 一組
      - 二回戦敗退 一組
    - 女子個人
      - ベスト4 一組
      - 一回戦敗退 一組

### 教員による随想

私事ですが、先日三〇歳の誕生日を迎え、誕生日を授業のネタにしようにと考える中で、教員になるまでの道筋を振り返ってみました。僕は二十一歳の時にプロの道を諦め、それでも音楽にしがみ付いていたくてこの道を志したのですが、始めの内は辛い経験の連続でした。中学一年生の数学の問題が全く解けず、小学校

五年生の計算ドリルからやり直し。教員免許を持たずに教職大学院に入学したために、散々同級生に馬鹿にされた挙句、「あなたは何もわからないでしょ。」と相手にすらしてもらえない。学費を稼ぐために長期のバイトに加えて、割の良い単発バイトをいくつも掛け持ちし、さらに食費や光熱費の節約で一夏風呂で過ごした日々もありました。本当に何度諦めて楽になりたいと思ったかわかりません。

でもそうやって足掻きながらも頑張っただけで、勉強を重ねて家庭教師で働くことで、子どもと関わることに楽しさや面白さを知りました。自分を馬鹿にした同級生を見返すために教員として成長したいという感情が生まれ、数々の仕事経験を「学校の先生でこんなことできる奴いるか?した奴いるか?」と前向きに考えられるようになりました。そして何より、免許取得までの六年間で、こんな僕を応援し支えてくれるたくさんの人たちに会えることができました。僕が今こうやって夢叶って教員ができているのは、その人たちのおかげと言っても過言ではありません。

今年で三〇歳。教員として三年目。まだまだ新米で失敗ばかりですが、それでも僕は今、この仕事を諦めなくて本当に良かったと思っています。子どもたちと過ごす楽しい日々ややりがいのある仕事。本当に毎日充実しています。残りの人生、早く教員採用試験に合格し、綺麗なお嫁さんをもらってさらに充実した日々を送りたいです。